

令和3（2021）年度 横川中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

・「人権尊重の教育」を基盤とし、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る教育活動の実践を通して主体的・創造的に生きる、人間性豊かなたくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標（具体的な児童像など）

・思いやりのある子ども（思いやり星） ・よく考え進んで学ぶ子ども（学び星）
・健康でねばり強い子ども（健康星） ・働く喜びを知る子ども（働き星）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」

子どもたちが夢を抱き、未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく、愛情と使命感をもって、全力で教育にあたっていく。そして、思いやりがあり、生き生きと学ぶ児童を育成し、児童・教職員・保護者・地域が共に学ぶ楽しい学校を目指す。

楽しい学校とは、「児童にとって、わくわくして登校し、楽しい一日を過ごし、満足して下校できる学校」「教職員にとって、自分のもてる能力を十分に発揮できる、やりがいのある学校」「保護者にとって、安心して子どもを通わせ、積極的・主体的に協力できる学校」「地域にとって、信頼でき、積極的・主体的に協力できる開かれた学校」である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印

（1）学校運営の適正化

創立 148 年目を迎える本校の歴史と伝統を継承し、児童・地域の実情を踏まえ、学習指導要領に基づき、学校や児童の実態に即した創意ある教育課程を編成する。児童を主体とする活動の充実を図ると共に、地域の教育力の導入を推進し、活気あふれる学校づくりに努める。

（2）教職員の資質の向上

教育公務員として法令を遵守するとともに、人づくりの使命感に立ち、学校や保護者・地域の実態を踏まえた実践的な研修に励み、自身の資質向上を図り、和と協働を基盤に、教職員一人一人の特性やよさを生かし、児童・保護者と共に学校づくりに努める。

（3）学年・学級経営の充実

児童一人一人の興味・関心・意欲や個性等に配慮し、主体的・対話的で深い学びに向けた学級集団づくりと、活力に満ちた教育活動の展開のための学級力向上に努める。

（4）学習指導の充実

児童主体の分かる授業、楽しい授業の展開に向けた授業力の向上に取り組み、基礎・基本の確実な定着を図り、思考力・判断力・実践力等を重視した体験的・問題解決的な学習を推進すると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。

（5）豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした指導と共に、様々な体験活動を通して、生命尊重・思いやり・感謝・勤労・奉仕等の豊かな心の醸成等を重視した教育を推進し、心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

（6）児童指導の充実

全教職員の認識を共有し、児童・保護者・教職員間の信頼関係を深め、共感的理解に基づいた人間関係を確立し、日常のふれあいを通して、基本的な生活習慣や集団行動の徹底を図るとともに、社会性の育成に努める。

（7）体力の向上と保健安全教育の充実

本校の課題である児童の体力向上を目指し、自ら進んで運動に親しみ、健やかな体を育む保健体育指導の充実を図ると共に、健康・保健・安全指導の推進に努める。

○（8）地域学校園・小中一貫教育の推進及び特色ある学校づくり

地域の教育力を生かし、家庭・地域・関係諸機関との連携・協働を図りながら、充実した地域学校園・小中一貫教育の実践に努める。また、児童が主体となった勤労生産活動や奉仕的活動を積極的に取り入れた、特色ある学校づくりに努める。

(9) 地域とともにある学校づくり

地域の教育力の活用及び発掘を推進すると共に、年間を通してのフリー参観や土曜授業等の実践により、学校と保護者地域等の信頼関係を深め、地域に開かれた学校づくりに努める。また、地域協議会・地域諸団体と連携・協働し、地域に根ざした学校づくりを目指す。

[横川地域学校園教育ビジョン]

「豊かな心の育成を目指す 横川地域学校園の小中一貫教育」

～自分、人、地域を大切にすることの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、公教育の立場から日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則並びに小学校学習指導要領の基準に基づいて編成する。
- (2) 学習指導要領の基本的なねらいである、基礎的な知識及び技能を習得させること、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことの実現に向け、それらにバランス良く取り組める教育課程を編成する。
- (3) 「栃木県教育振興基本計画2025」に示された基本理念である「とちぎに愛情と誇りをもち 未来を描き ともに切り拓くことのできる 心豊かで たくましい人を育てます。」を目指し、「確かな学びを育む教育の充実」に基づいた教育課程を編成する。
- (4) 宇都宮市「第2次学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン）」を基に、その施策の柱である地域学校園構想・小中一貫教育を円滑に実施していくことを考慮して編成する。
- (5) 本校教育目標・本年度の経営方針や努力点・学校課題等を踏まえるとともに、地域社会の要望、保護者の願い、本校の実情や児童の実態・特性等を十分に考慮して編成する。
- (6) 前年度の成果や反省を生かすとともに、各教科、特別な教科「道徳」、総合的な学習の時間及び特別活動の4領域の関連を図り、調和と統一のある編成に努め、ゆとりある充実した教育課程を編成する。（教科横断的な視点より）

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 思いやりの心の育成

「特別の教科道徳」を核とした心の教育の充実や、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動の推進を図る。

(2) 学力向上

主体的・対話的で深い学びを促す学習指導と評価の工夫・改善（授業力の向上）や、子どもたちの良好な人間関係（学級力）を高め、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る。

(3) リーダー性の育成

特別活動（学級活動及びクラブ・委員会・児童会等の活動）の活性化を図るとともに、教育的ニーズに応じた多様な学びの場の充実により、児童の社会性の育成に努める。

(4) 地域と共にある学校づくり

家庭・地域並びに地域学校園の教育力を生かした教育システムを積極的に活用し、活気あふれる学校づくりに努める。

【学校運営】

- ・教職員が児童と向き合える時間の確保に向け、業務の効率化に努めると共に、出退勤時刻の管理に係る取組により、労働時間の適正化を推進する。
- ・共同的な学びの実現に向けて、教職員自らが学び合い、授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進に努める。

○・主体性と独自性を生かした学校経営を推進すると共に、地域学校園に係る事業の効果的で円滑な運営に努める。（乗入授業、研究授業、相互授業観察等の交流、外国語教育に係る授業力向上を図る取組の充実、等）

【学習指導】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、以下のテーマで研究に取り組む。
「主体的に自分の思いを表現し、学び合う児童の育成」

【児童生徒指導】

- ・道徳的な判断力、実践力を育むとともに、体験活動や読書活動の充実により豊かな感性を育む。
- ・いじめ防止基本法に基づき、「特別の教科 道徳」や児童会が主体となった集会活動など様々な教育活動の場の設定により、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・教科指導の充実や学校行事、児童会活動等の機会を通して、運動に親しもうとする態度・能力や、健康を大切に管理する態度の育成を図る。
- ・給食指導を中心に、より良い食習慣について児童自らが考え実践できるよう指導の充実を図ると共に、家庭・地域と連携して、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力の育成を図る。

6 自己評価項目（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線。

※「主な具体的な取組」の方向性には A拡充 B継続 C縮小・廃止

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 話の聞き方、発表の仕方、ノートのとおり方など基本的な学習態度・技能を身に付ける指導の充実を図る。一人一人が意見を発表しやすい学級の雰囲気づくりに努める。</p> <p>② 授業中の約束について、学年の発達段階や実態に応じた指導を行い、定着を図る。</p> <p>③ 授業において、児童が自分の思いや考えを豊かに表現できる学習活動を重視する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・学習用具のきまりが定着できた。 ・授業の前に着席し、チャイムを守る行動はできている。 ・話型を活用することで、学年に応じた話し方や発表の仕方が定着してきた。引き続き、話の聞き方や発表の仕方を各クラスで掲示し、活用していく。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の聞き方や発表の仕方の指導は、引き続き行っていく。 ・横川中央小の授業中の約束を各教室に掲示し、随時確認する場を設けることで、児童の意識を高める。
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 縦割り班活動・奉仕活動を中心とした異学年交流や体験活動の充実により思いやりの心を育成する。</p> <p>② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や人を思いやる心などを育成する。</p> <p>③ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。また、思ちゃんコーナー、思ちゃんカードを積極的に活用し、人権教育活動の活性化を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・感染症対策をしながら縦割り班活動や奉仕活動の充実に向けた。 ・年間を通して計画的に校内掲示板「思ちゃんコーナー」の充実に努めた。各学級においても思ちゃんカードを積極的に活用し、互いの違いを認め、他を尊重する態度の育成に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して取り組み、思いやりの心の育成や人権教育活動の活性化を図る。
	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生</p>	<p>① 生活目標（短期的な具体目標）を設定する。「学校は社会の</p>	A	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 85.3%</p>

<p>活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>ルールを学ぶ場である」という共通理解のもと、全教職員で指導内容を明確に把握することで、基本的な行動様式の指導を徹底し、習慣化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いや廊下歩行について重点的に取り組む。生活当番による校内巡視の強化や児童会を中心とした取組を継続して行い、規範意識の醸成を図る。 ・道徳や学級活動を中心として、きまりやマナーを守ることの大切さについて考える教育活動の場を設定することにより、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。 <p>② <u>横川地域学校園で推進する時間・言葉づかいの指導の徹底を図る。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に達することができなかった。 ・生活当番による校内巡視の強化や児童会を中心とした取組を継続して行い、規範意識の醸成を図った。 ・教職員間で情報を交換しながら指導内容を明確に把握することで、指導の徹底に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ることや言葉遣い、廊下歩行等、指導内容の重点化や取組方法を再検討・改善することで、規範意識の醸成を図る。
<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① <u>家庭や地域団体と連携しながら、あいさつの日常化を図る。</u> 学級や学年集会等であいさつの大切さを理解させたり、よくできている児童を称賛したりするなど、礼儀やあいさつに対する意識の高揚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会主体のあいさつ運動 ・教職員によるあいさつの励行 <p>② <u>横川地域学校園による「あいさつ運動」を実施する。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・地域学校園による小中あいさつ運動強化週間では、児童会を中心にあいさつの活性化に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組は継続して行うとともに、感染状況に注視しながら、年間を通じたあいさつ運動を実施し、礼儀や挨拶に対する意識の高揚を図る。
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学期ごとに学習や生活のめあてを立て、振り返り活動を重視し、あきらめずに取り組めるよう認めて褒めて励ます指導に努める。</p> <p>② 学校行事や児童会活動、各種検定等での目標を持たせたり、役割を最後まで果たせたか振り返りの時間を確保したりする。</p> <p>③ 四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、児童が目標達成に向けて努力したことを称賛する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を若干下回った。行事や取組に制限があったことが要因として考えられる。 ・学習や生活、清掃活動の頑張りを全校をあげて認める取組（四つ星シール）では、児童が意欲的に活動する姿が見られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動、各種検定等の内容を工夫し、児童が目標をもって取り組めるよう励ましていくようにする。 ・四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、互いに認め合う場を設けることで、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活</p>	<p>① 児童が自分の健康に気を付けて生活し、自ら健康を管理できる</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答率 93.7%</p>

<p>している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>ように、学級活動、保健体育と関連し、休み時間の過ごし方・廊下の歩行や、手洗い・うがいの励行などの保健安全指導に努める。特に、感染症を予防するために、教室等の換気やできるだけ接触を避けるなどの生活の仕方について日常の指導を行う。</p> <p>② 学校給食と各教科等の関連を図り、栄養バランスのとれた食事やマナーの大切さ、望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③ 危機を予測し、自らの命を守る行動力を育成するために、日常の安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>・目標値は、昨年度より上回った。 ・全教職員で共通理解のもと日常の指導を行い、さらに児童会各委員が呼び掛ける等、児童主体の活動として取り組むことにより、目標達成につながった。 ・給食時の栄養教諭の放送により、食に関する意識を高められた。 ・養護教諭が、感染症予防等、健康に関する放送を行うことで意識が高まった。 【次年度の方針】 ・成果が認められた取組を次年度も継続して行い、健康や安全に気を付ける児童の育成を図る。</p>
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して、児童が自らのよさを自覚して夢や目標に向けて取り組もうとする意欲や、勤労の尊さや生産の喜びを体得させる活動を意図的・計画的に実施する。</p> <p>② 地域の取り組みを紹介するとともに、<u>地域と協力して、ボランティア活動や地域の行事に参加する機会を設ける。</u></p> <p>③ 各教科や学級活動と関連させながら、宮キャリア・パスポートを活用し、児童が将来の夢や希望を描いたり、目標の実現に向けて努力したりする意欲や態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.6% ・目標値を若干下回った。昨年に引き続き、感染症予防の観点から、学校行事や活動の一部に制限があったことが要因の一つとして考えられる。 ・市から示されたキャリア・パスポートを活用し、昨年の自分を振り返るとともに、将来への夢や目標について考えることができた。 【次年度の方針】 ・地域と協力して、ボランティア活動や地域の行事に参加する機会を充実させる。 ・コロナ禍であっても児童が将来の夢や希望を描いたり、目標の実現に向けて努力したりできるような場面を設け、自己のよりよい成長を実感できるようにする。</p>
<p>目 指 す 児 童 の 姿</p> <p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 外国語活動や外国語の授業を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的に英語でのコミュニケーションを図ろうとする活動を展開する。</p> <p>② 授業以外にも、ALTと英語でのやり取りをする機会を設け、児童が英語にふれる機会を多くする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.3% ・目標値を若干上回った。 ・外国語活動や外国語の授業で言語活動を行うことができた。 ・清掃時にALTも参加し、児童と触れ合う機会を作ることができた。 ・図書室前に英語に関する内容を掲示することで、児童が英語に触れる機会が得られた。 【次年度の方針】 ・外国語活動や外国語の授業での言</p>

			<p>語活動は今後も充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカードやピクチャーカード、四本線黒板などの学校備品を増やし、授業に生かせるようにする。
目 指 す 児 童	<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学校図書館に宇都宮に関する書籍の常設コーナーを設置したり、読み聞かせなどで宇都宮関連の本を取りあげたりして、宇都宮に関する関心を高める。 ② 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や地域での学習において、学習内容に関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付くような指導に努める。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 83.3% ・目標値を下回った。 ・宇都宮に関する常設コーナーを設置しているが活用されていない。 【次年度の方針】 ・各教科の学習内容と関連させながら、宇都宮市のホームページや書籍を活用して宇都宮市への関心を高める。 ・1・2年の生活科、3・4年の社会科、5・6年の総合的な学習の時間「うつのみや学」の学習の中で、宇都宮の良さをより意識できるような学習活動を工夫する。 ・学習に応じて、市立図書館から借り入れを行い、各学年に設置する。</p>
	<p>A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書、一人一台端末等 ICT 機器を有効活用し、学習活動の充実を図る。 ② プログラミング学習の実施により、児童がコンピュータや情報機器に親しみ、適切に活用する能力を育成する。 ③ 随時蔵書を点検し、学習内容との関連に配慮した図書の整備と拡充のため、図書選定委員会を通して計画的に補充するなど学校図書館の環境整備に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.1% ・目標値を上回った。 ・一人一台端末の導入によって、昨年度よりも児童が自分で、タブレット端末を利用することができた。 【次年度の方針】 ・様々な教科で ICT 機器やタブレット端末を利用する場を多く設定し授業で効果的に活用していく。 ・今後も、児童がタブレットに触れる機会の充実を図る。</p>
	<p>A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 高齢者への感謝や敬う心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて高齢者とふれ合う活動を設定する。 ② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や人を思いやる心などを滋養する。【A2②再掲】</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.4% ・目標値を上回った。 ・感染症対策のため、生活科の昔遊びや5年生の総合的な学習のひょうたん村訪問は実施できなかったが、総合的な学習の時間において、県老人福祉施設協議会協力による3年「福祉・介護のお仕事講座」や横川地域包括支援センター協力による5年「認知症サポーター養成講座」を設け、高齢者への理解や思いやりの心を育む活動を実施した。</p>

の 姿			<p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組んでいくとともに、道徳の時間を中心として、各教科で高齢者を思いやる心を育成する。
	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間における環境教育やエコ活動等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意欲や態度を育成する。</p> <p>② 学級活動や各委員会活動を通して、節電・節水や校内緑化の推進を図る。</p> <p>③ 図書資料を活用し、SDGsについて、主体的に学べる環境を整える。</p> <p>④ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。</p> <p>【A2③再掲】</p> <p>⑤ 過去の震災などの具体例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回ったが、昨年度より向上した。 ・SDGsについては、学年に応じて指導した。各学級担任が、電気や水道の使い方を指導したので、児童が意識するようになってきた。 ・総合的な学習の時間や道徳等の教科において、エコ活動や防災・環境問題、高齢者・障がい者・子どもの人権問題を取り上げ、安全・安心なくらしづくりについて学習した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動を通してSDGsと結びつけて学習や活動を展開していく。 ・係活動を活用し、節電・節水等を心掛けるよう引き続き指導していく。 ・環境づくりや緑化活動を担当する環境委員会を新たに設け、「持続可能な社会」についての児童主体の活動を推進していく。
目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、共通理解を図り、学校全体で指導にあたる。</p> <p>② 特別な支援を必要とする児童を含むすべての児童にとって分かりやすい授業の展開や、誰にでもわかるユニバーサルデザインを意識した指導をし、適切な支援に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・配慮が必要な児童全員の個別の支援計画に合理的配慮に関する事項を記載し、学校全体で共通理解のもと指導・支援した。 ・「わかる授業」を行うとともに、児童が学習に集中できるような学習環境作りに学校全体で取り組んだ。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して取り組んでいく。
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」</p>	<p>① 「いじめをしない、させない、許さない」心を育てるよう、あらゆる時間や場において、人権意識を高める指導の充実を図る。</p> <p>② 「いじめ調査」や「教育相談」を定期的に行い、組織的な対応により早期発見、早期対応に心掛ける。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・普段から児童の様子を観察したり、情報交換を行ったりするとともに、「いじめアンケート」や「教育相談」等から児童の実態把握に努め、早期発見、早期対応に努めた。

目	⇒児童の肯定的回答 90%以上		<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心とした「いじめゼロ集会」では、児童の主体的な活動の充実に努め、人権意識の高揚を図った。 ・必要に応じていじめ等対策委員会を開き、組織的に対応した。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・取組内容を継続し、今後もしじめ根絶に尽力する。
指 す 学 校 の 姿	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方は一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスを作ってくれている。」⇒児童の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 「挨拶」「励まし」「称賛」等の言葉掛けを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場を設定したりして、自分の居場所となるような温かい雰囲気学級経営に努める。</p> <p>② 児童の自己肯定感を高められるよう、「思ちゃんコーナー」など児童相互に認め合う場を数多く設ける。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・自分の学級に限らず、学校全体で児童を「認めて 褒めて 励ます」ように努めた。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校不安のある児童及び保護者にはスクールカウンセラーや関係機関への相談を勧め、連携を図りながら支援した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して取り組み、居がいはある学級経営に努めていく。
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 外国人児童が円滑に編入学し、充実した学校生活を送れるよう、全職員が連携し、受け入れ体制づくりに努める。</p> <p>② 個々の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・本年度の該当児童はいなかった。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した学校生活を送れるよう、全職員が連携し、受け入れ体制づくりに努める。
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです。」⇒児童の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学校評価、行事アンケート等を検証し、児童の思いを生かした学校行事、児童会活動、学年活動等を設定し実施する。</p> <p>② 児童一人一人のよさを伸ばす指導に努め、特色ある学校づくりや特別活動、道徳教育を推進し、望ましい人間関係の醸成に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため学校行事や生活に制限があったこともあり、目標値を下回ったと考えられる。 ・児童会活動では「みんなのめあて」の設定など児童主体の活動になるよう工夫した。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会活動・学年活動などの改善に取り組むとともに、特色ある学校づくり等を積極的に推進していく。
	<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力</p>	<p>① 授業のねらいを明確にし、少人数指導やT.T、課題別学習など各学年の実態や各単元に応じた</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。

<p>向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>指導法の工夫を図り、個に応じた多様な学習を展開する。 ② ICTを積極的に活用したり教材や提示資料を工夫したりして学習意欲を高める工夫をする。 ③ 宮っ子学力アップシートや漢字・計算オリンピックをはじめ、朝の学習の時間などを活用して、基礎・基本の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の一連の学習過程が定着している。 ・デジタル教科書や実物投影機、タブレットなどのICT機器の活用が定着してきているので、児童の意欲や理解が高まってきている。 ・朝の学習時の漢字や計算、読書を中心とした学習により、学習の基礎・基本や語彙力が身に付いてきている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間を活用して、さらなる基礎的基本的な言語の力の定着化を図る。引き続き、宮っ子学習シートや漢字・計算オリンピックを活用し、計画的に繰り返し学習していく。 ・引き続き、個に応じた言葉掛けや課題の提示の仕方をはじめとする指導・支援を工夫する。
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 教員と専門性を有するスタッフがそれぞれの能力や専門性を生かしながら、学校の諸課題や運営等に相互に連携・協力しながら取り組む。 ② 「横央小の児童は全職員で育てる」という意識のもと、打合せ等を活用して全職員が児童理解に努め、担任以外の児童にも積極的に関わり、児童のよさ等を伝え合い、児童の成長を見守り支援・指導していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した感染症対策を実施する中で、教職員全体で状況に応じたよりよい方法を検討し連携をとることができたので目標値を上回ったと考える。 ・それぞれの専門性を活かしながら、教職員全体で協力し、課題に取り組むことができた。 ・担任と連携して四つ星シールを活用することで、児童の頑張りや成長を全職員で共有し見守ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、継続して全職員で横央小の児童を育てるという意識のもと、教職員の連携を密にして対応に当たるようにする。
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答</p>	<p>① 出退勤時刻記録の継続や月に一度の定時退勤日の確実な設定・実施など、教職員一人一人が勤務時間を意識して、業務の効率性を考慮した計画や実施に努める。 ② 業務効率の改善に向け、ペーパーレス化を推進し、学級事務や児童指導等の共有化を図る時間を確保するため、日課の変更等の検討を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 78.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回ったものの、昨年度より肯定的な回答率が上がった。 ・感染症対策など業務量は大きく変わらないが、タイムマネジメントの意識向上に努めた結果、肯定的回答率上昇に至ったと考える。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、放課後の時間を捻出する工夫をし、学級事務や校務分掌

目 指	90%以上	③ 地域コーディネーターや学校支援ボランティア等の協力を得て、各教育活動の効果的で効率的な業務の改善に努める。	など、個々の業務に充てる時間の確保・効率化に努める。 ・学習支援ボランティア等に協力をいただきながら、よりよい教育活動の充実を図る。
目 指	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 「あいさつ運動」など <u>地域学校園の取組を懇談会や各種便り、ホームページ等を通して、積極的に保護者や地域の方々に知らせる。</u> (その都度、具体的に示し、実施の意義も伝えていく。) ② <u>小中学校での相互の授業参観や研究授業の公開、中学校からの乗り入れ授業等の積極的な交流を実施する。</u> ③ <u>各分科会や学校一人配置職員の分科会を通して、地域学校園内の相互支援体制を充実する。</u>	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 80.6% ・感染症拡大防止のため、活動それぞれが2年続けて縮小したことで、目標値を下回ったと考える。 ・学校事務・養護教諭・栄養士間では、情報交換を頻繁に行い、学校園での感染症について可能なことを話し合い、共通理解のもと活動ができた。 【次年度の方針】 B ・乗り入れ授業は、アンケート後に実施するので、その内容も含めて小中一貫教育の具体的な取組をホームページや学校園のお知らせを作成するなどし、発信していく。 ・地域学校園内の「あいさつ強化月間」を活用し、あいさつ運動を継続的にを行い、児童の豊かな心の育成を図る。 ・地域学校園のお弁当の日を活用し、児童の食に関する意識を高める。
す 学 校 の 姿	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 保護者による学習支援ボランティアや街の先生や読み聞かせ、安全ボランティア等の地域教育力を積極的に生かした体験型学習の充実を努める。(地域・保護者等と協力体制をとって、感染症対策を施す。) ② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用に努める。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.2% ・目標値を上回り、昨年度より約4ポイント増えた。 【次年度の方針】 B ・今年度の取組を継続して行い、感染症対策を施しながら、読み聞かせボランティアや地域人材を活用した教育活動の充実を努める。 ・今後も地域学校園において、地域人材の共有化を図り、その活用に努めていく。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図って	① 保護者による学習支援ボランティアや街の先生や読み聞かせ、安全ボランティア等の地域教育力を積極的に生かした継続性や系統性のある体験型学習の充実を努める。(地域・保護者等と協力体制をとって、感染症対策を施す。) 【A22①再掲】 ② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用</u>	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 87.5% ・感染症拡大防止のため活動それぞれが2年続けて縮小したことで、目標値を下回ったと考える。 B ・保護者の肯定的回答は目標値を下回ったが、ボランティアの方々は本校の教育活動の充実のために、感染症対策を行いながら活動いただいた。

<p>る。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>に努める。【A22②再掲】</p> <p>③ 本校の取組や各学年の行事等 について、各種便りやホームペ ージ等で保護者に発信する。</p>	<p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、感染症対策を施しながら、学習支援ボランティアを始め協力活動を継続して依頼し、学校教育の充実を図っていく。保護者のより一層の協力を呼びかける。 ・地域学校園で本校の取組を発信するとともに、地域人材の共有化を図り、その活用に努めていく。
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 縦割り班による清掃指導の充実を図り、清潔で心休まる学習環境を整えたり、毎日荷物の整理や片づけたりして教室の美化に努める。</p> <p>② 毎月の安全点検や定期的な教材・備品等の整理整頓により、危険箇所や不備について迅速な改善に努める。</p> <p>③ 避難訓練や引渡し訓練等を通して、不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>④ 新型コロナウイルス等の感染症拡大や熱中症予防対策など、時期や状況に応じた保健指導や管理に努める。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 保護者の肯定回答率 87.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回った。 ・日々の清掃指導を行い、毎月施設設備の安全点検を実施し、可能な限り修理修繕を実施した。 ・休み時間の校庭でのケガが多かった。校庭での遊び方について再度指導が必要。 ・感染症等の予防について、養護教諭が中心となり、全職員で取り組んだ。 ・校内オンラインによる各種避難訓練を確実に実施した。 ・感染症予防の観点から、引き渡し方法の一部を変更し実施した。 ・校内事故発生時の迅速な対応に向けて連絡体制等の見直し、強化を図った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭での正しい遊び方や室内での安全な過ごし方について、日常的に指導するとともに学級活動等の授業における指導を充実し、児童の意識を高めていく。 ・各委員会で呼びかけやポスター掲示など児童主体の活動を行う。 ・感染症予防に関する基本的な生活について学年の発達の段階や状況に応じた指導を継続する。
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書、一人一端末等ICT機器を有効活用し、学習活動の充実を図る。【A10再掲】</p> <p>② プログラミング学習の実施により、児童がコンピュータや情報機器に親しみ、適切に活用する能力を育成する。 【A10再掲】</p> <p>③ 随時蔵書を点検し、学習内容との関連に配慮した図書の整備と拡充のため、図書選定委員会を</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率 98.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・一人一台端末の導入により、昨年度よりも児童が自分で、タブレット端末を利用することができた。また授業だけでなくAIドリルなど家庭学習でも利用することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ICT機器を活用した授業の様子をHPや学年だよりを活用

		通して計画的に補充するなど学校図書館の環境整備に努める。 【A10再掲】	して保護者に発信していく。 ・様々な教科で ICT 機器やタブレット端末を利用する場を多く設定し授業で効果的に活用していく。
本校の特色・課題等	B1 勤労生産的な活動を計画的に実施し、働く喜びを知る児童の育成に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、清掃活動や栽培活動に一生懸命取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 縦割り清掃、クリーン活動、勤労タイム等に児童が主体的に取り組めるよう、計画・実施する。 ② 米作り体験や花壇・教材園などの栽培活動を計画的・継続的に実施する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.4% ・目標値を上回った。 ・感染症対策の制限を施しながら、清掃活動や栽培活動、米作り体験を実施することができた。 【次年度の方針】 ・児童が主体的に取り組めるよう、引き続き、計画的・継続的に実施する。
	B2 児童は、主体的に考え、互いに学び合う力が育っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、学習することが楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 授業において、児童が自分の思いや考えや思いを豊かに表現できる学習活動を重視する。 【A1③再掲】 ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会や授業を相互に見せ合う研修の機会を充実し、協働的な授業づくりと指導力向上に努める。 ③ 職員の授業力向上に向け、校内研修サポート事業を年に4回実施する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.2% ・目標値を下回った。 ・「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成～言語活動「書くこと」を通して～」という研究主題のもと一人一公開授業を通して、教員が協働的に学び合い、外部の講師から指導を受けることで授業力の向上を図った。 ・児童は、「書く」言語活動の経験を重ねることで、「書くこと」に抵抗感が軽減してきている。 【次年度の方針】 ・児童が理由や根拠を明確に示しながら自分の意見を書いたり、発表したりできるような授業を実践し、授業研究会や校内研修サポート事業を活用して指導力の向上を目指す。
	B3 児童は、自分のよさに気づきいきいきと生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生は、自分のよいところや努力を認め、ほめたり励ましたりしてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 授業や生活の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したことが自覚できるような自己評価や相互評価の場を設ける。 ② 児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、教職員も認めて褒めて励ます指導に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.5% ・目標値を上回った。 ・授業や生活の振り返り活動を重視し、自己評価や相互評価の場を設けることで、自己存在感の高揚を図った。 ・児童相互に認め合う場を設定することで、自尊感情や自己有用感の高揚を図った。 【次年度の方針】 ・一人一人が自分のよさや頑張りを自己評価したり互いに認め合う場を数多く設定したりする取組を継続する。

6 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印と下線。

今年度も、コロナ禍において全体アンケートが実施された。

感染症対策のため、今年度も、授業参観や親子ふれあい活動などが中止となり、保護者からは、学校の様子をよく見られない状況でアンケートに回答するのは難しいとの意見をいただいている。学校だよりやホームページ等で様子を伝えるようにしてきたが、学校の取組を十分に伝えられたとは言えない。

そうした中、教職員や地域住民、児童のほとんどの項目で肯定的回答の割合が昨年度より高くなったものの、保護者に関しては下がった項目が多かった。

重点目標「思いやりの心の育成」に関する「児童生徒は誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」の全ての対象者が90%以上の肯定的回答があり昨年度を上回った。「先生方はいじめが許されないことを熱心に指導してくれる」は児童98.0%と高く、保護者の肯定的回答割合も昨年度を上回った。定期的ないじめアンケートや教育相談の実施により、児童一人一人の声に耳を傾け、問題の早期発見や早期解決に向けて取り組んだ。また、今年度も感染症による差別やいじめをしないというメッセージを伝え続けてきた。

重点目標「学力向上」に関する「分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導」については、児童97.1%と、市の割合と比べても高いが、保護者86.3%であった。今年度は、「主体的に、自分の思いを表現し、学び合う児童の育成」を研究主題にして研究授業や一人一公開授業・授業研究会を行い、教師同士及び外部の指導者による授業力向上の研修を重ねた。実践していく中で、児童にはよい変容が見られるようになってきたが、保護者への周知・説明の機会が足りなかった。「ICT 機器や図書等を学習に活用」については、全ての対象者において、昨年度よりも大きく上回った。4月から一人一台端末が配備され、基本的操作から活用については研修や実践を通して、教員も児童も活用能力が高まっている。同時に SNS での書き込み等の問題もあることから、ネットリテラシーや情報モラルに関する学習の計画的・発展的な指導をさらに充実していく必要がある。図書室の利用や読み聞かせは、感染症予防対策のため十分に実施できていない。

重点目標「リーダー性の育成」に関しては、「学校に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」の児童の肯定的な割合は、昨年度を若干上回った。例年通りの学校行事等は行えなかったが、感染状況に応じ、できる限り体験的活動を工夫して実施した。また、児童会を中心に児童主体の活動を増やし、活躍できる場を設けた。「先生方は一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスを作ってくれている」児童95.9%と昨年同様に高い値である。「先生は、自分の良いところや努力を認め、ほめたり励ましたりしてくれる」児童92.5%、保護者93.3%と目標値を上回った。

重点目標「地域と共にある学校づくり」に関しては、「家庭・地域・企業等との連携・協力」の教職員、地域、児童の肯定的回答の割合は、市の平均割合よりも上回った。感染状況を考慮し、地域や協力企業とはオンラインで交流・体験するなど、その都度できることを模索しながら実践した。「小中一貫・地域学校園の取組」については市の平均も低い。感染症対策との関連で、小中一貫あいさつ運動は実施できなかった。6年生の乗り入れ授業や中学校訪問はアンケート後の実施であるため、数値には反映されていない。

このような状況下でも、本校では、学習支援ボランティアや地域コーディネーターの方々にご協力をいただくことができ、学習環境の整備を図ることができたことに感謝したい。

教職員の働き方に関しては、「チームとなり、協力して業務に取り組む」100.0%と教職員の評価は昨年度を上回った。感染症対策のための取組やGIGAスクール構想の実現に向けて、専門性を生かした提案や協議、研修を通して、全職員がより協力して取り組んだ。「勤務時間を意識して業務の効率化に取り組む」については78.1%ではあるが、昨年度よりも上回った。勤務時間の管理、定時退勤日の設定、具体的な改善を進めてきた。業務の改善への意識化は図られているが、教育に関しては効率化できないものがある。学校予算の縮小もあり、書類の作成など業務の量が減らない中、授業づくりや一人一人の児童への支援のために費やす時間は足りないくらいである。そのため、超過勤務は改善されない。放課後の時間確保などさらなる業務の効率化や改善が必要である。

7 学校関係者評価

○第2回地域協議会（授業見学）における意見と学校マネジメント評価自由記述

- ・子どもたちが落ち着いて穏やかに生活できていて、地域として安心した。いろんなことが行き届いていると感じた。先生方がいろんな面で頑張ってくれていると思う。
- ・各教室とも整理整頓がよかった。コロナ対策として教員が子供たちに消毒するように気を遣っているという印象を受けた。

- ・児童がタブレットを使う授業では、外部の専門の先生（市の ICT 支援員）にも教えてもらえてとてもすばらしいことだと思った。ゆくゆくは全部の教科でタブレット指導が必要になっていくのかと思った。子供たちが教科書だけを頼みにしないで、自分で考える力を身につけることを大切にしている。
- ・低学年からのタブレット端末使用における指導に留意し、家庭への注意も促してほしい。
- ・コロナ禍で学校凝視に制約がある状況が早くなくなり、次年度には、運動会・横央祭等で子ども達が楽しんでる姿にふれあえるように願ってる。制約された学校生活にストレスを感じたり、その矛先がいじめ等になったりしようにご指導をお願いしたい。

○第3回地域協議会（紙面開催）における意見

- ・コロナ禍で様々な活動が制限される中、学校評価項目の肯定的回答率が高く、ほっとした。教職員の努力のお陰だと思う。子ども達のためにできることを今後も頑張りたい。
- ・新型コロナの影響で2年以上我慢する生活が続いている中で、子ども達の思いやりの心の育成に関する項目が昨年度より上回っていることに安心した。
- ・達成状況が概ね高い数値であり、子どもも保護者も学校に対してそれぞれ満足していると思う。子どもにとっては、楽しみながら学べる場所として学校での教育が改めて大切であるとみることができた。
- ・コロナ感染症の為に、大きな声で挨拶できないことや行事が中止になったり規模が小さくなってしまったりしたことなど他にも様々な制限があって、子ども達の心に影響が出ているようだ。教職員の先生方が工夫されて子ども達が楽しめるようにされているのが分かる。
- ・学校・家庭・地域のみならず子ども達を育てようとする取組は素晴らしいことだと思う。「分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導」では児童 97%で保護者 86%と差があり、保護者全体へ伝わっていないことが残念である。
- ・学習面、学校生活の評価が高いのは、先生方の努力の成果だと思う。その反面、先生方の働き方の評価が低いことが気になることである。先生の負担はまだまだ軽減されていないようだが、少しずつでも改善されることを願っている。
- ・コロナ禍、職員の方々は大変な苦勞をなされていることと思う。地域の一人として感謝申し上げます。
- ・タブレットが配られたが、かなりの重量を背負っている。学校全体では置き勉（状況に応じて、一部の教科書を学校に置いておく措置。学年毎に異なります。）をしてもよいことになってはいるが、実際の子供のランドセルは全教科書を持ち帰っている。学校全体での共通の取組なのか疑問である。
- ・タブレットの使用等工夫された授業も大変だが、活用できるよう頑張ってもらいたい。
- ・川田・上横田・インターパーク方面について、下校時に保護者や地域の方の出迎えが以前より見受けられるようになった。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度も学校教育目標の具現化に向けて、「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」を目指す学校像として、努力点の重点化を図りながら、教育活動の充実を図ってきた。また、これらの実現のためには、保護者・地域と連携・協働した施策・事業の展開が不可欠なため、「魅力ある学校づくり協議会」を核として、共に学ぶ楽しい学校づくりを目指してきた。今年度も、コロナ禍において、従来通りの活動や行事が難しい状況下でも、実施方法を変更したり工夫したりしながら、学校教育活動を行ってきた。今回の評価結果と学校内自己評価を受けて、次年度の方策について検討していく。

- ・児童が夢や目標をもち、明るく生き生きと物事に取り組めるように、学校行事や児童会活動・学年活動などを工夫しながら可能な限り実施し、児童の主体的な活動を引き続き指導・支援していく。
- ・地域の方々との触れ合いや地域の行事への参加は、地域への愛着心や自己の存在感などを高め、児童の心の育成に大切な関わりであることから、今後も安全対策をとりつつ、可能な限り実施していく。
- ・小中一貫教育・地域学校園の取組については、学校園や地域での交流が縮小されていることが主な原因であると考えられることから、オンラインでの実施など新たな仕組みについて検討し、可能な範囲で取組を進める必要がある。
- ・学校の業務の効率化については、一人一台端末の導入に伴う必要な初期の対応や研修の増加などが生じたため、教職員の業務に負担が生じたものと考えられる。今年度配置された ICT 支援員や SSS（消毒業務を担うスクールサポートスタッフ）を有効に活用するとともに、今後も学習支援ボランティアの協力を得るなどして、業務の負担軽減を図る必要がある。